



令和6年度林業イノベーションハブ構築事業

第2回 専門委員会 各事業内容の実施状況の確認・中間報告

日時 | 令和6（2024）年 10月 31日（木） 15:00～17:30

場所 | 主婦会館プラザエフ 3階 コスモス

Web会議「Webex」を併用



一般社団法人 日本森林技術協会

Japan Forest Technology Association



一般社団法人 社会実装推進センター

JISSUI

1. 第1回専門委員会の振り返り

2. 森ハブ・プラットフォームの構築・運営

- 森ハブ専用ホームページの開設・実施状況
- PF会員登録等の状況
- イベント開催（シンポジウム等による成果の発信含む）
- ワーキング・グループの設置・運営支援

3. デジタル林業戦略拠点に係る伴走支援・横展開

4. 林業機械の自動運転・遠隔操作に係る安全対策の検討

5. 今後のスケジュール

□事業の実施概要

- 昨年度も指摘しているが、なぜ、林業に技術を導入していくのか。そういった目的を整理すべきではないか。森ハブ・プラットフォームの設置目的は明確にしておき、原点に立ち返ることができるようにしておくとうい。
- 日本の林業は、なぜ世界からこんなに遅れているのか。そこを解決したいという明確な目的があってやっているはずで、安全で儲かる林業を実現していくために、キャッチーな、一番分かりやすく示していくことは重要だろう。
- **主目的は「安全性と生産性を林業の現場において上げて（高めて）いく」こと。**
 - ・ **安全性**：林業は非常に危険な産業であるという現状の認識があり、こういった実態を変えて、より安全な産業にしていかなければいけないという課題がある。
 - ・ **生産性**：労働生産性の観点からも十分な生産性が上がっていないという現状もある。
- **主目的の次の段階として、これらを通じて従事者を確保していくこと、林業経営自体の収益性を上げていくことを想定している。**
- **新しい技術を現場に普及することや、異分野の方を林業業界に呼び込むことが、主目的を達成するための手段として位置づけられる。**

ロ デジタル林業戦略拠点に係る伴走支援・横展開

- 北海道のような取り組みで、サプライチェーンのデジタル化というのは、トラック1台分の材積をどのように検知を取らず、そこでお金に換算できるかという合意形成が重要である。
 - 合意形成の規格づくり、最終的にここがクリアできないと、オールデジタル化は進まない。
- チェックリストに関して、チェックする内容が「できているもの」なのか「できていないもの」なのか。
 - 「できているもの」のチェックだけでなく、課題を浮き彫りにしていくことが重要で、チェックした内容等をどうやって検証していくのかや、そのプロセスが重要ではないか。
 - チェックリストは、チェックして終わりではない。そこから先が重要であり、その確認をした方がよいだろう。
- 導入効果に関して、新技術の導入は大抵コストが合わないことが多い。ある意味、それを前提としながら新技術の導入をするために、何を議論していくのか。すべてデジタル化にするのか、部分的なデジタル化なのかといった議論が重要だろう。
 - **本チェックリストの活用に関し、デジタル林業戦略拠点の事業の中では、コンソーシアムとコーディネータが話し合うための資料という位置づけで、双方がチェックリストを実施し、互いに実施した結果を見せ合って振り返るような場、PDCAとして使用していくことを推進している。**
 - **しかし、チェックリストを公表しただけでは、事務局の意図違いな使用方法となってしまうため、公表にあたってはPDCAのツールであるという理解がしやすい形で示していきたい。**

ロ森ハブ・プラットフォームの構築・運営

- 他省庁のプラットフォーム等との連動はできないか。
 - 例えば、森ハブ専用HPと他省庁HPとの相互リンク
 - 森ハブイベントについては、他省庁等でメルマガ配信を行ってもらっている。今後は、森ハブ事務局からもメルマガ配信を行うため、他省庁等の情報発信を行い、連動できればと思っている。
 - 農水省のWebサイト規定では自由にリンク設定が可能のため、検討中である。
- イベント等を通じたマッチング機能の強化を図るべき。
 - ①マッチングを強化。②マッチングが難しいと感じている会員に対して事務局がフォローアップ。
 - 会員から3~5分程度のピッチプレゼンテーションを行ってもらうのはどうか。
 - イベントは、リアル（対面）のほかにバーチャルでマッチングできるシステムを導入してもよいかもしれない。リアルとバーチャルの両輪でできると効果的ではないだろうか。
 - イベントに参加者を呼び込むためには、大企業等に国の政策方針や補助・交付金等の情報提供を行うことや、公募事業等の相談会の実施等は満足度が高い。
 - 会員側の視点として、どのような成果があるのか（上がるのか）が重要で、マッチングの成功事例等を森ハブ専用HP上で示していくと、非常に活気づけになる。
 - 会員からの情報提供を常に募り、事務局から森ハブNEWS（メルマガ配信）を発信する。併せて、WG設置支援等でマッチングの強化を図る。
 - 会員に任意で作成してもらった「会員紹介シート」を会員限定で公開する。
 - ピッチプレゼンは、どこでやるかというのも重要だと感じている（都内または地方）。まずは場所を選ばず、誰でも見ることが可能な動画を会員から募集し、動画についてはテーマ等を設定する。最終的には森ハブ専用HPで会員限定で公開するのはどうか（≡ピッチプレゼン）。
 - ②は事務局がメールにて対応を行っている（問い合わせの濃淡あり）。なお、上記のとおり、マッチングの強化を図っていくため、今後の事務局のサービス内容を整理していく必要がある。

□ (つづき) 森ハブ・プラットフォームの構築・運営

- 森ハブPFに参画している人達で「モチベーション・リテラシーが高い林業事業者・自治体」に焦点を合わせていくとよいのではないかと。
 - ▶ 深掘りイベントでは、リテラシーが高い事業者を選んで本質的なフィードバックをきちんと得ることを目的としている。
 - ▶ 森ハブに未参加でリテラシーが高い事業者を巻き込めるようなイベント開催とPRを進めたい。

□ 林業機械の自動運転・遠隔操作に係る安全対策検討

- 林業機械ではリモコンの搬器があるが、様々な規制によって自動運転・遠隔操作が実現できていないところである。このような中では、制度を変えていくことも踏まえた議論をしていく必要があるのではないかと。
 - ▶ 今ある機械、稼働している機械だけでなく、全体の林業機械について、おおよそのガイドラインというものを作成し、そこに達するまでの諸条件を提示することも必要かと思う。機械ごとに濃淡があってもよいと思うが、どの機械でも、ある程度の指針等を示せるとよいのではないかと。
- 林業機械の免許制度について、あまり検討されていないように感じるため、追加で整理してもらえるとよい。
 - ▶ 既存の林業事業者の中では、制度や規則等のルールを知らない中で使用されているように感じるため、そういったルールをきちんと示していくことが重要だろう。
- 資料3のpp.43：「林業機械の製造者・導入主体・使用者等の役割」の記載があるが、それぞれに対してのガイドラインになるものを作成するのか。対象者によって内容が変わると認識している。

1. 第1回専門委員会の振り返り

2. 森ハブ・プラットフォームの構築・運営

- 森ハブ専用ホームページの開設・実施状況
- PF会員登録等の状況
- イベント開催（シンポジウム等による成果の発信含む）
- ワーキング・グループの設置・運営支援

3. デジタル林業戦略拠点に係る伴走支援・横展開

4. 林業機械の自動運転・遠隔操作に係る安全対策の検討

5. 今後のスケジュール

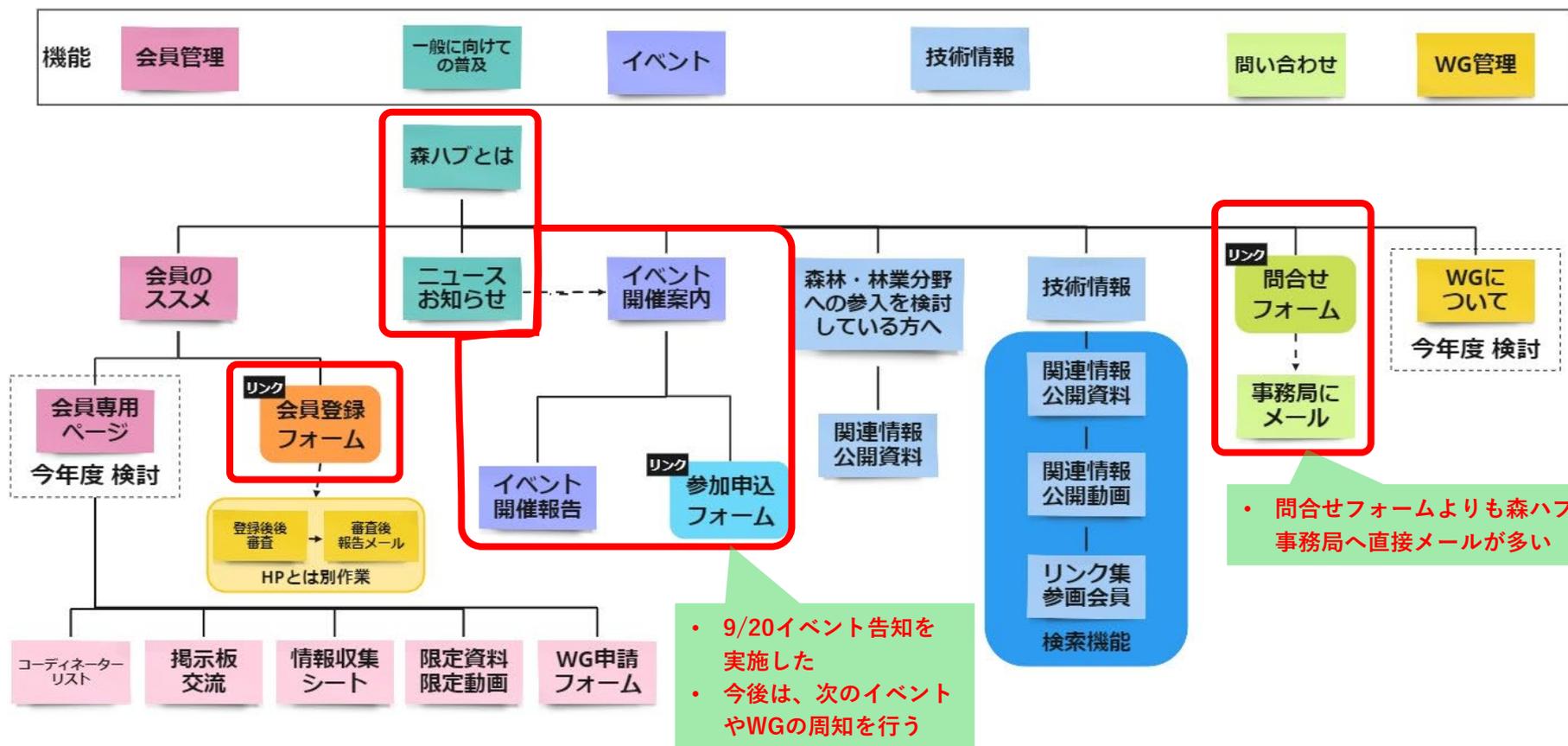
- R5森ハブにおいて「森ハブ・プラットフォーム」を設置した。
- R6森ハブでは、設置要領・参加規約（R6.7.17 改正）に基づき、下表のとおり取組を実施する。

No.	実施内容	概要
1	森ハブ専用ホームページの開設	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 森ハブ事務局としての業務を効率的に、効果的に実施することを目的として開設する。 ◇ 会員、イベント等の申し込みフォームを設置する。 ◇ わかりやすい形で技術情報を掲載する。 ◇ 令和6年8月9日に森ハブ専用HPが完成し、各種情報の公開を開始した。
2	PF会員登録等 会員へのアンケート (結果とりまとめ)	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 林業現場の課題・ニーズおよびそれらの解決に資する技術シーズ等に関する情報を収集することを目的として実施する。 ◇ とりまとめた結果を基に、情報発信およびイベントの企画等を実施する。 ◇ PF会員への支援を目的に、メルマガ配信（11月1日付～）を実施する。
3	イベント開催	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 林業と異分野の関係者等の森ハブ・プラットフォーム会員がつながることができる場を形成して、マッチングを推進するため、4回（対面型、レポート公開型）のイベントを開催する。 ◇ 令和6年9月20日に1回目の大規模イベント（対面型）を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 参加者に対してイベント開催後アンケートも実施済み。 ◇ 深掘りイベント（レポート公開のみ）を調整中である。
4	ワーキング・グループの 設置・運営支援	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 会員向けにワーキング・グループの設置希望の有無を調査する。 ◇ 設置することとなった場合は、運営支援および会員への情報提供を行う。 ◇ WG設置支援を希望する会員を10月中旬に募集・審査し、森ハブ専用HPやメルマガ配信で情報提供を行う。

2-2. 森ハブ専用ホームページの開設①

- 今年度はすべてのページを誰でも閲覧可能なHPとし、会員に限定すべき情報は、メールにより通知する。
- 今後、会員に向けてID、パスワードを発行し、**会員限定でアクセス可能なページ**も必要になると考えられ、その内容について検討を行う。
 - **会員限定のアクセス可能なページについては、現行は森ハブ事務局が所有するMicrosoft OneDriveにて共有を行っている。**

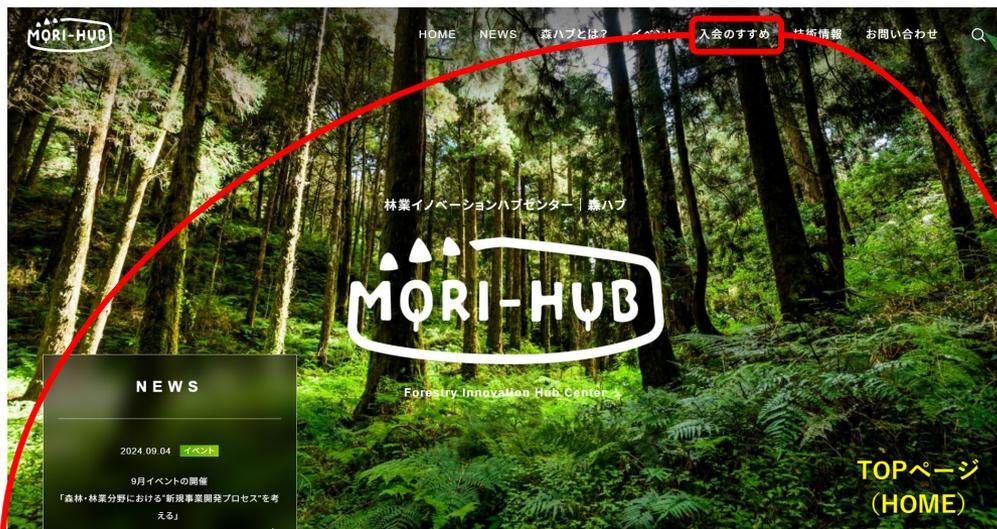
森ハブHP



2-3. 森ハブ専用ホームページの開設②

□ R6年8月9日に森ハブ専用ホームページを開設した。

- 森ハブ・プラットフォームへの会員申込フォームやイベントの周知を実施中である。
- 一般利用者等に向けて、森ハブ案内リーフレットや動画を作成・公開し、認知度向上を目指す。



- 【コンテンツ】**
- HOME
 - NEWS
 - 森ハブとは？
 - イベント
 - 入会のすすめ
 - 技術情報
 - お問い合わせ

※HPと動画（約2分）を実際にご紹介します。



図 森ハブ案内リーフレット (A3版)



森ハブ・プラットフォーム申し込みフォーム

※必須
設置要領・参加規約へ同意のご確認
森ハブ・プラットフォーム設置要領・参加規約

I 設置要領

(設置趣旨)

第1条 我が国の林業は、人口減少・少子高齢化に対応した担い手の確保といった他産業と共通する課題とともに、厳しい地形条件等の下、作業の安全性を確保した上で、労働生産性及び林業経営の収益性を向上させるといった課題を抱えている。これらの課題を解決しながら、林業をより魅力ある産業として発展させていくためには、林業の特性を踏まえた新技術の開発から実証、実用化、普及に至る取組を効果的に進め、林業現場への導入を加速する「林業イノベーション」の実現が必要である。

「林業イノベーション」の実現には、これまで我が国の林業に携わってきた事業者等と、新たな技術や視点と森林・林業分野への高い関心を有する異分野の事業者等が集まった上で、情報共有・交流を活性化し、連携・協業を深めていくための「場」を形成することが必要である。そのために、林業イノベーションハブセンター（通称：森ハブ）にプラットフォームを設置することとする。

(名称)

第2条 設置するプラットフォームの名称は、「森ハブ・プラットフォーム」（以下、「本プラットフォーム」という。）とする。

(運営)

第3条 本プラットフォームの運営は、林野庁に別添設置する「林業イノベーションハブセンター（森ハブ）」の事務局

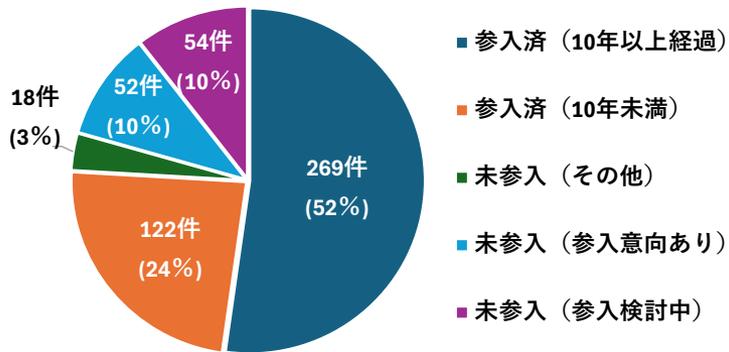
図 森ハブ・プラットフォーム申し込みフォーム

2-4. PF会員登録等の状況①（登録状況）

「森ハブ・プラットフォーム」の会員登録等の状況は、下記のとおり（令和6年10月23日時点）。

会員数 515件（2024年10月23日時点（前回から+17））

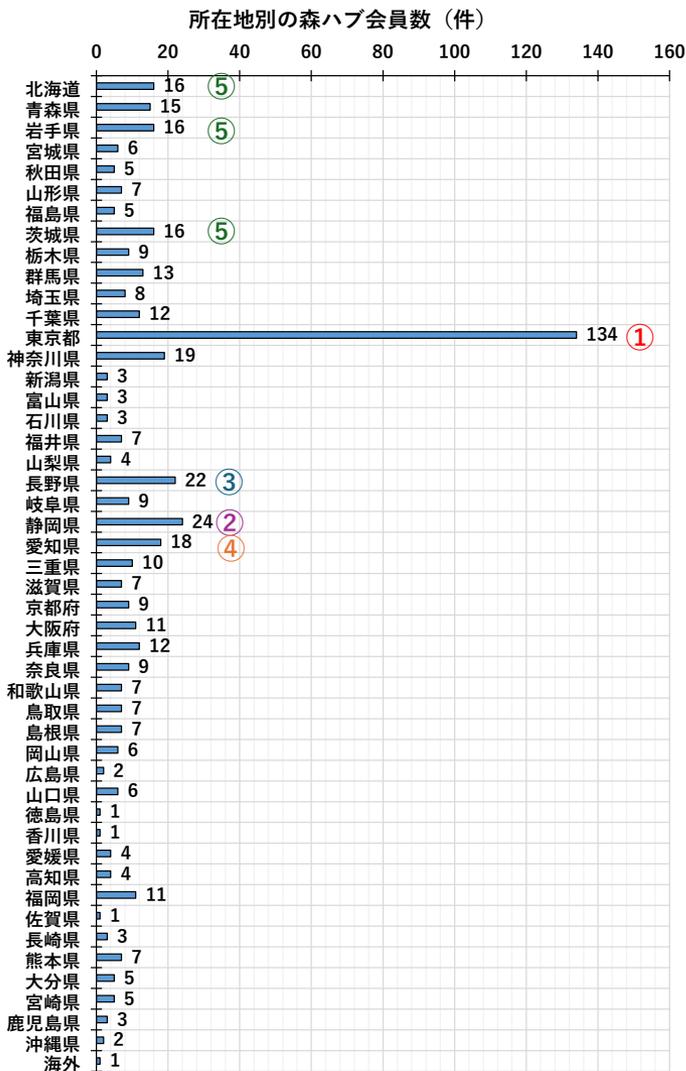
会員の森林・林業分野への参入状況



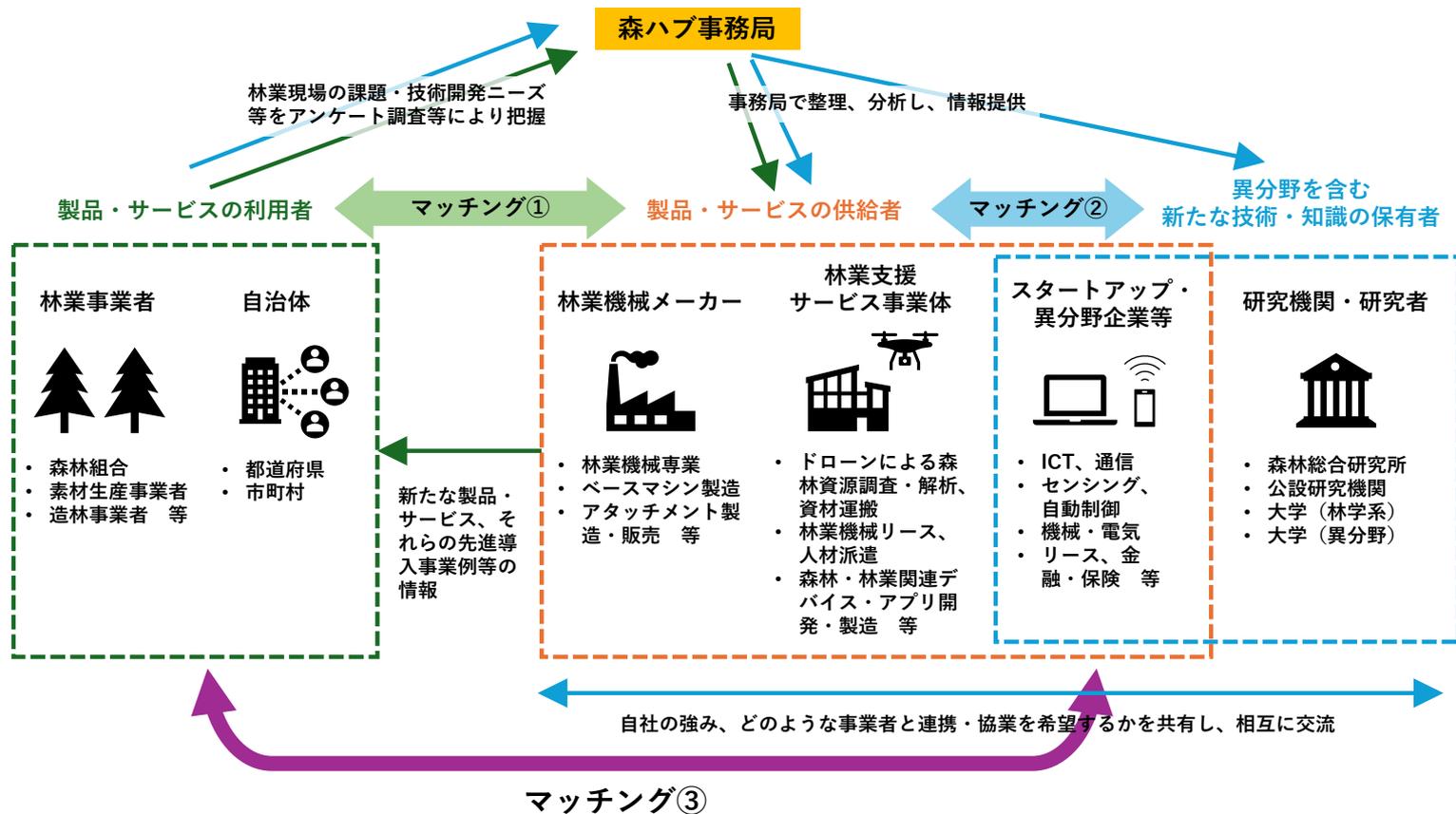
森林・林業分野への参入状況と興味関心のある領域（複数回答）



所在地別の会員数



- 森ハブ・プラットフォームで目指すマッチングのイメージを念頭に置き、**林業×異分野の関係者等の会員がつながることができる場を形成し、マッチングを推進**する。
- 年度内に4回程度を目安にイベントを開催する。
 - **2回分（9/20、翌年2月予定）は、一般参加型イベント**として開催を予定する。
※翌年2月予定のイベントは、シンポジウム等による成果の発信と合同開催とする。
 - **2回分（11月頃提供予定）は、会員限定の深掘り情報提供**として、**レポート**配信を予定する。



2-8. 一般参加型イベントの開催結果（令和6年9月20日@ビッグサイト）①

日程 令和6（2024）年9月20日（金）14:30～16:30

会場 東京国際展示場
会議棟6階 607+608会議室

次第 **タイトル**
森林・林業分野における“新規事業開発プロセス”を考える
趣旨説明 森ハブ・プラットフォームの趣旨を説明した。

参加 事前申込 110名（会員48、非会員62）
最終人数 67名（会員30、非会員37）

一重 喬一郎 氏（林野庁）

基調講演 林業における新規事業開発のポイント

中間 康介 氏（一般社団法人社会実装推進センター 代表理事・株式会社GREEN FORESTERS 取締役 CSO）

幅広い業種のスタートアップ支援コンサルタントの立場から造林事業のスタートアップを実現してきた。
林業分野の様々な慣行を乗り越えて新規事業開発を成功させるポイントについて、紹介した。

トークセッション 新規事業開発の実例から

【開発】小林 俊仁 氏（株式会社はんぼさき 代表取締役）

【ユーザー】望月 貴治 氏（株式会社白糸植物園）

チームで使う共有地図LivMap（リブマップ）を開発し、これの事業開発プロセスの実例を紹介した。

まとめ（総括）

立花 敏 氏（京都大学）



写真 イベント開催 講演中（趣旨説明）



写真 イベント開催 参加者同士の対話

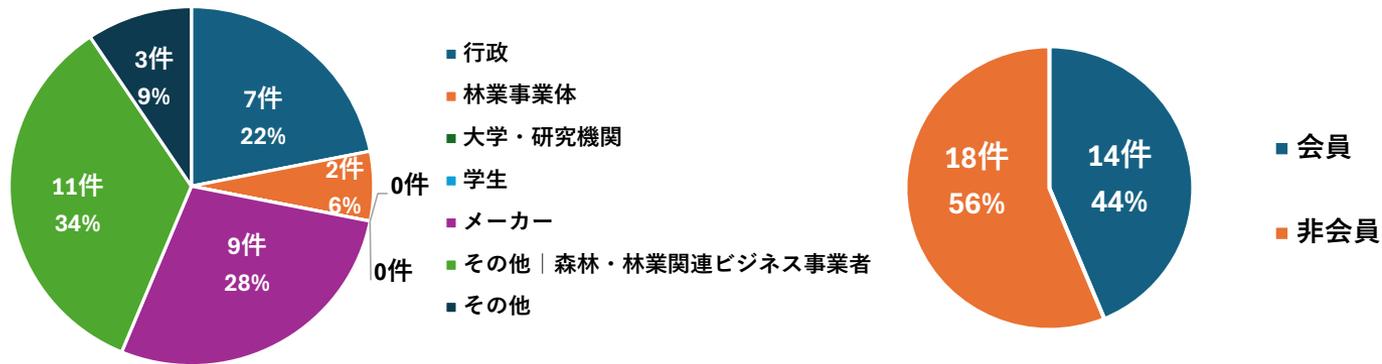


写真 イベント開催 トークセッション

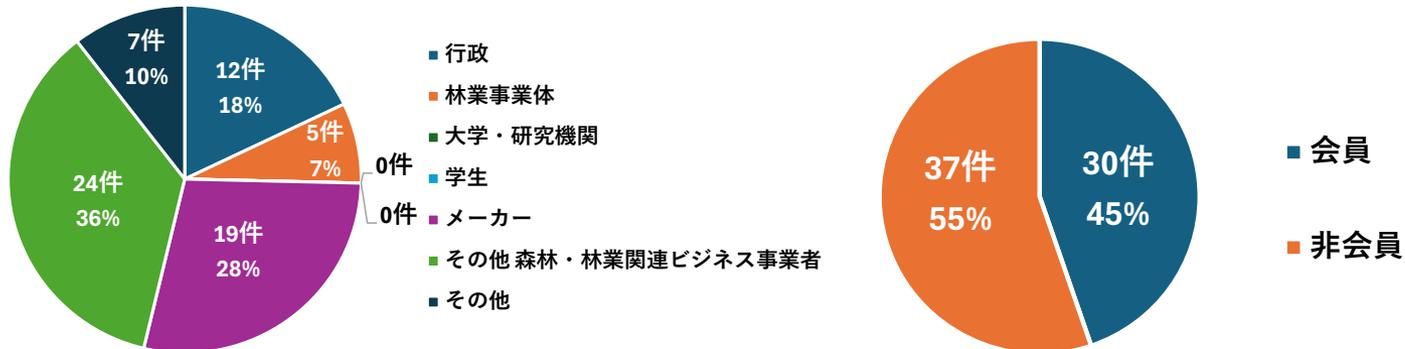
2-9. 一般参加型イベントの開催結果（令和6年9月20日@ビッグサイト）②

- 一般参加型イベントの開催後、アンケートを実施した。
 - アンケートの回答数を増やす試みとして、回答した参加者のみ講演資料一式をデータで送付した。
 - 有効回答数は32件。回答率は47.7%であった。

イベント開催後のアンケート参加者属性



(参考) イベント開催中の参加者属性



2-10. 一般参加型イベントの開催結果（令和6年9月20日@ビッグサイト）③

基調講演・トークセッション・イベント自体の満足度

□各講演等の満足度

基調講演 平均評価 4.1 トークセッション 平均評価 3.7 イベント（全体） 平均評価 3.9

□各満足度の回答理由（任意：自由記載）

- 運営への要望 投影資料は事前にほしい。講演は興味深かった内容もあったがスライドの字が小さい。
- 内容への要望 新規事業のカテゴリ分けをもう少し深掘りしてほしい。
事例は地図アプリで汎用性が高いものだったか、より林業に特化した内容のものを取り上げてほしい。
参加者の属性（立場）に応じた内容で、もう少し話を聞きたい。

■ 所 感 等

- ✓ 基調講演 2件 基調講演の内容がわかりやすい。新規事業を体系的に話していたのが興味深かった。
- ✓ 意見交換 3件 参加者同士の意見交換の時間が新鮮。意外と面白かった（森ハブの趣旨に沿っている）。普段話す機会のない業種の方の考え方や発想を知ることができた。
- ✓ 新規事業 2件 新規事業開発の参入障壁に気づくことができた。立ち上げ時の苦労話が聞けてよかった。
- ✓ 情報収集 5件 詳しい現場の話が聞けたから。想像と違ったものの有用情報が得られたため。懇親会で森林組合の話など聞けて有難かった。
参入障壁や開発方向性で疑問に感じていた部分について、林業業界の関係者の意見が聞けて参考になった。
非会員でイベントに初参加であった。非常に有益な情報を得られて来た甲斐があった。
- ✓ その他 4件 トークセッションは少し話が解りにくかった。便利で格安なアプリを知ることができた。事業開発モデルケースとして適当だった。新規産業の定義がお互いで異なっていた。

2-11. 一般参加型イベントの開催結果（令和6年9月20日@ビッグサイト）④

林業分野の”新規事業開発プロセス”について、イベントに参加して開催前・後で考え方に変化はあったか

□ イベント開催前後の考え方の変化

変化がある 21件：67% どちらでもない 10件：31% 変化がない 1件：3%

□ 回答理由（任意：自由記載）

■ 変化がある

- ✓ **開発関連 4件** 何を価値として提供するか、ニーズとターゲットをより細分化をする必要性を感じた。特化させすぎる製品を作ると、その後の展開が限定される点等今後の参考になった。個別対応せずに汎用性を高めてコストを下げる、といった考えは思いつかなかったため。汎用性をもっと検討すべきで、個別のニーズを捉えることに注力しすぎている。
- ✓ **参入関連 4件** 林業分野が、他分野からの参入を求めていることを初めて知った。今まで林業分野に興味がある人はいても、話が先に進まない理由が分かりやすかった。自分の思っていたものと違い、なかなか参入出来ない世界だと感じた。農業市場に比較し林業市場が小さいということを知り、随分、考え方に変化が生じた。
- ✓ **その他 4件** 具体例が多く参考になった。顧客の話聞く重要性を痛感した。森林組合への生産性アップ/提案。漠然と思っていた事が理路整然と解説され理解できた。

■ どちらでもない

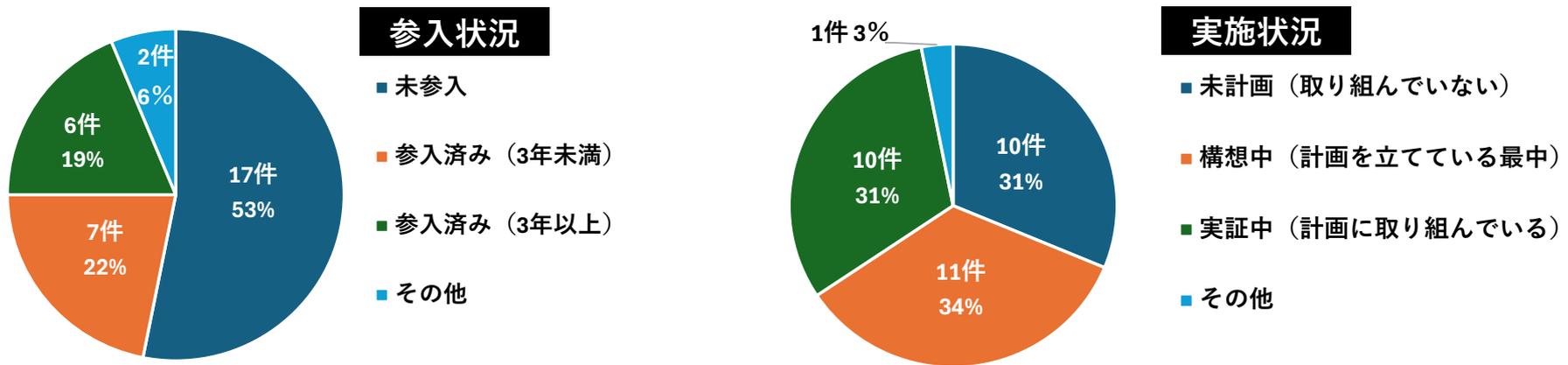
- ✓ 新規事業の定義に相違があったので、どちらでもない、と回答した。
- ✓ ”新規事業開発”と言っても様々な分野がある。本日の内容は参考になる部分もあったが、あまりならない部分もあった。

■ 変化がない

- ✓ 従来より中間さんの考えに近く、考えは変わりませんが賛同します。

2-12. 一般参加型イベントの開催結果（令和6年9月20日@ビッグサイト）⑤

林業分野での新規事業の開発に関する「参入」状況と「実施」状況



□ 「未参入 17件」について（6件 会員、11件 非会員）

- 実施状況の内訳は、10件が未計画、6件が構想中、1件が実証中
- 開催前後の考え方の内訳では、11件が変化がある、5件がどちらでもない、1件が変化がない

□ 「参入済（3年未満） 7件」について（4件 会員、3件 非会員）

- 実施状況の内訳は、0件が未計画、2件が構想中、5件が実証中
- 開催前後の考え方の内訳では、6件が変化がある、1件がどちらでもない、0件が変化がない

□ 「参入済（3年以上） 6件」について（3件 会員、3件 非会員）

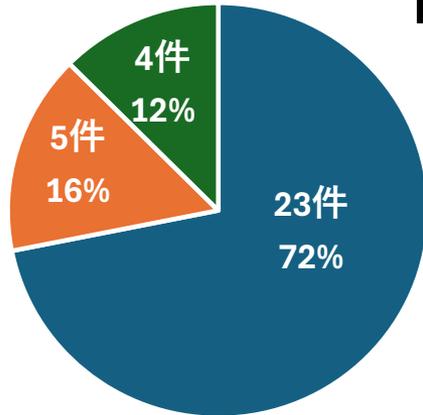
- 実施状況の内訳は、0件が未計画、2件が構想中、4件が実証中
- 開催前後の考え方の内訳では、3件が変化がある、3件がどちらでもない、0件が変化がない

□ 「その他 2件」について（1件 会員、1件 非会員）

- 1件 事業内容に該当がない。
- 1件 林業そのものではなく木質バイオマス事業に参入を検討（構想中）。

2-13. 一般参加型イベントの開催結果（令和6年9月20日@ビッグサイト）⑥

森ハブ・プラットフォームのイベントへの参加回数・次回イベントに向けた改善点や要望



参加回数

- 初回
- 2回目
- 3回目

改善点や要望（任意：自由記載）

- 業界ルールや関連法規、実務担当者の課題を知る場があるとよい。
- 造林のスタートアップを知りたい（下刈り、獣害等）。
- 防災に関するトピックを作してほしい。
- マッチング体制の調整をしてほしい。
- プロジェクターの動作確認は事前に実施してほしい。
- 森林や林業に関心がある異業種の方の話が聞きたい。
- 「林業とは」という会があってもよいのではないか。
- 林業のみから間口を広げて、木質バイオマス等にも関係性を広げてほしい。

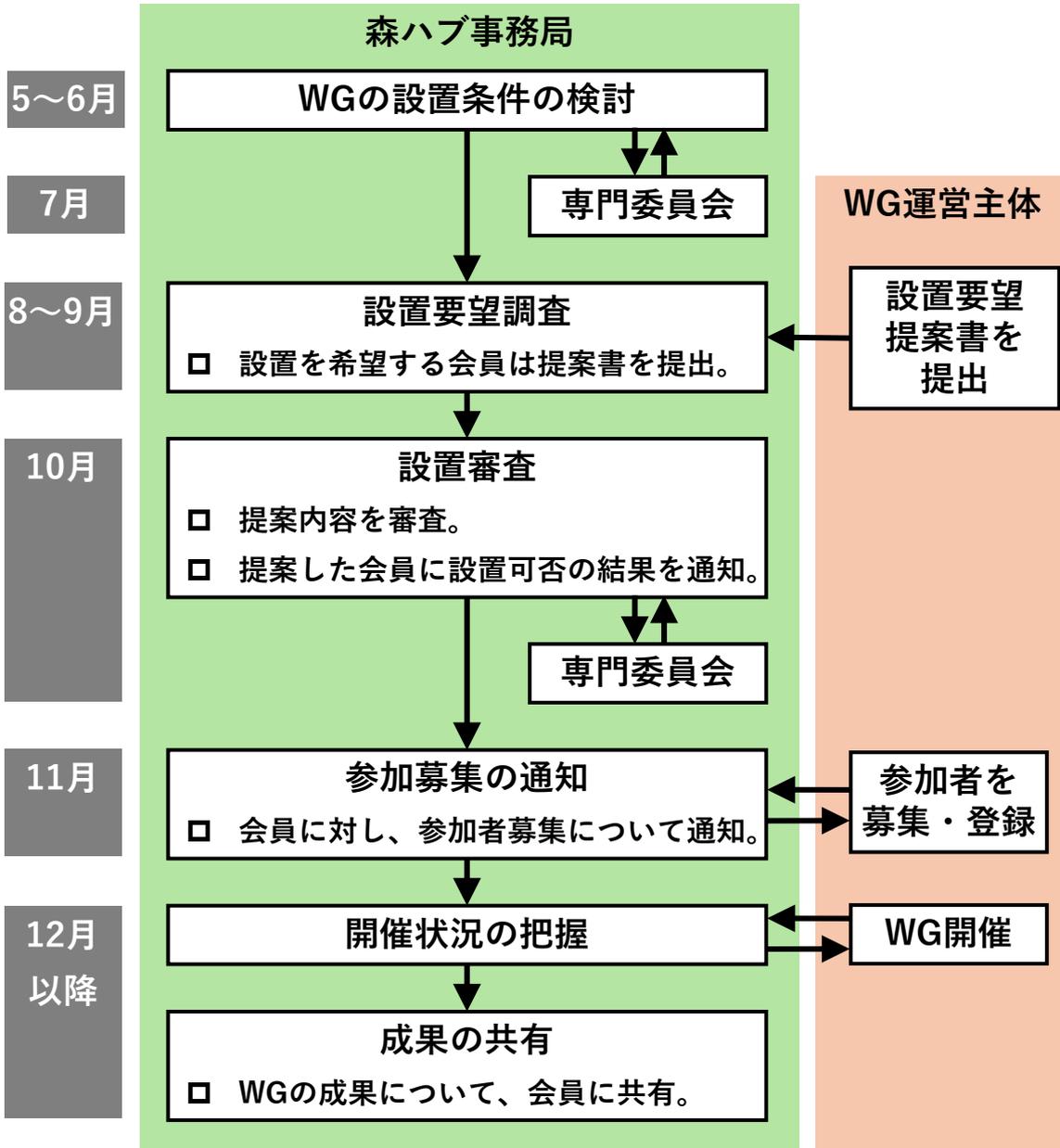
イベントへの所感等、自由記載

- 勉強になりました。また隣の方と色々お話でき、参考になった。
- もう少し新規会員や非会員が気軽に話せる仕組みを作って欲しい。
- 貴重な機会をいただきありがとうございました。
- 講演の中で、隣の席の方と話す機会があったのはよかった。
- 新規事業を検討している方が1/3いたのは驚いた。

- ワーキング・グループ（以下、「WG」という）は、特定のテーマに関し定期的に意見交換・議論を行い、その成果を取りまとめたという会員が集まり設立するものとする。
- 森ハブ事務局はその設置・運営を支援する。
 - WG運営主体からの情報を会員に共有することが主となる。

R6 森ハブの概要（実施項目）

- WGの設置条件を定め、WG運営主体を募集し、審査を行う。
- 設置されるWGは、今年度中に成果を出すことは難しいが、令和6年度中に少なくとも1回のWG開催を条件とする。



2-24. ワーキング・グループの設置・運営支援②

目的等

- 森ハブ会員同士の情報交流を深めるため、ワーキング・グループ（WG）設置を募集する。
 - 森ハブ事務局にて審査の上、**採用されたWGについては、以下の支援**を行う。
 - 森ハブHPやメールマガジンにおいてWG開設の案内、参加者募集のお知らせを行います。
（なお、参加者の応募先等は運営者としてください）
 - 森ハブHPやメールマガジンにおいてWG開催結果の報告を行います。
（なお、報告文書は運営者にて作成をお願いいたします）
 - 森ハブHPやメールマガジンの掲載内容は事務局で確認後掲載されます。
- ※ その他のWGの運用は、運営責任者が中心となり、実施していただきます。

応募期限

令和6（2024）年10月24日（木）まで

採用連絡

令和6（2024）年11月8日（金）までにメール連絡

今年度は本期間のみ、
WG設置対応とした。

採用条件（審査項目）

- 運営責任者及び参加メンバーが森ハブ会員であること。
- 森ハブの設置要領・参加規約に則った取組みであること。
- 林業の安全性と生産性の飛躍的な向上を図るために必要な新技術の開発と現場実装に役立つ特定のテーマを取り扱う取組みであること。
- 令和6年度中に1回は開催し（オンラインでも可）、報告文（所定様式あり）を提出すること。

1. 第1回専門委員会の振り返り
2. 森ハブ・プラットフォームの構築・運営
 - 森ハブ専用ホームページの開設・実施状況
 - PF会員登録等の状況
 - イベント開催（シンポジウム等による成果の発信含む）
 - ワーキング・グループの設置・運営支援
3. **デジタル林業戦略拠点に係る伴走支援・横展開**
4. 林業機械の自動運転・遠隔操作に係る安全対策の検討
5. 今後のスケジュール

3-1. 第2回デジタル分科会、現地視察の実施結果（概要）①

日程 令和6（2024）年9月6-7日（金-土）

行程	回数	種別	概要
	9/6 (金)	□ 視察、意見交換	<ul style="list-style-type: none">□ 株式会社米子木材市場□ 山土場（西佐伯郡大山町）□ 株式会社ミヨシ産業 <プレカット工場>
		□ 第2回デジタル分科会	<ul style="list-style-type: none">□ 鳥取地域 SCMシステムについて□ 静岡地域 進捗報告・視察しての意見□ 北海道地域 進捗報告□ 質疑応答・意見交換
	9/7 (土)	□ 視察、意見交換	<ul style="list-style-type: none">□ 株式会社日新 <合板工場>
		□ 意見交換（座談会）	<ul style="list-style-type: none">□ SCMシステム、サプライチェーンの可視化について□ 委員等からのコメント・振り返り□ リードタイム、在庫量に係る視点での意見交換

参加者

【委員等】 伊呂原 隆（上智大学 理工学部 情報理工学科 教授）

鹿又 秀聡（座長、森林総合研究所 林業システム研究室）

高橋 伸幸（群馬県森林組合連合会 総務部長）

中澤 昌彦（森林総合研究所 収穫システム研究室 室長）

【デジ林3地域】 北海道地域（分科会Webのみ）、静岡地域（現地参加）、鳥取地域（現地参加）

【事務局】 林野庁、日本森林技術協会

【オブザーバー】 森林総合研究所 林業システム研究室、住友林業

3-2. 第2回デジタル分科会、現地視察の実施結果（現地視察）

現地視察の目的

- 鳥取地域における山土場 → 木材市場 → 合板工場 → プレカット工場までの木材の流れを確認する。
- 伊呂原委員より経営工学の観点から林業・木材産業にアドバイスをいただく。
- 鳥取地域が構築しているシステムの原型となった（株）ミヨシ産業の社内システムを視察する。

山土場



(株) 米子木材市場



(株) 日新



(株) ミヨシ産業



1. 第1回専門委員会の振り返り

2. 森ハブ・プラットフォームの構築・運営

- 森ハブ専用ホームページの開設・実施状況
- PF会員登録等の状況
- イベント開催（シンポジウム等による成果の発信含む）
- ワーキング・グループの設置・運営支援

3. デジタル林業戦略拠点に係る伴走支援・横展開

4. 林業機械の自動運転・遠隔操作に係る安全対策の検討

5. 今後のスケジュール

4-1. 安全対策の検討の実施結果（概要）①

開催回	開催時期	議事内容等	備考
第1回	7月31日	<ul style="list-style-type: none"> (1) 本検討会の概要 (2) 林業機械の安全にかかる現行規定 (3) 林業機械の活用・開発の現状 (4) 他産業におけるガイドラインの事例 (5) リスクアセスメントの概要 (6) 要検討事項等 	
第2回	9月9日	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイドラインの適用範囲等 (2) 機械メーカーヒアリング <ul style="list-style-type: none"> ① 伐倒作業車（松本システムエンジニアリング株式会社） ② フォワーダ（株式会社諸岡） ③ 集材機（イワフジ工業株式会社） 	オブザーバー参加なし
第3回	11月15日	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイドライン（骨子案）の検討 > 中間とりまとめとしてのガイドライン（案）の作成 	オブザーバー参加なし
ガイドライン照会	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドライン（案）の照会（機械メーカーからの意見集約） 	
第4回	R7 1～2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 林業機械の自動化・遠隔操作化の開発・実用化状況及び販売実績等のアンケート集計結果の説明 ・ ガイドラインver.1.0の最終調整、策定 ・ 来年度以降の取組予定（検討対象、ガイドライン実用性検証・更新）の決定 	

4-2. 安全対策の検討の実施結果（概要）②

日程 令和6（2024）年7月31日（水）13:30～16:30

会場 三番町共用会議所 大会議室
（Web会議「Webex」併用）

- 次第**
- (1) 本検討会の概要
 - (2) 林業機械の安全にかかる現行規定
 - (3) 林業機械の活用・開発の現状
 - (4) 他産業におけるガイドラインの事例
 - (5) リスクアセスメントの概要
 - (6) 要検討事項等



写真 第1回安全対策検討会 開催風景

- 参加者**
- 【委員等】 陣川委員（座長）、中澤委員、岩岡委員、齋藤委員、石井委員、日高委員、淡田委員
舞草委員（WEB）、伊藤委員、中島委員、飯澤委員、松本委員、堀江委員
- 【オブザーバ】 林業・木材製造業労働災害防止協会
- 【行政】 厚生労働省労働基準局
- 【関係者オブザーバ（WEB）】
- 【事務局】 林野庁、日本森林技術協会

4-4. 安全対策の検討の実施結果（概要）④

日程 令和6（2024）年9月9日（月）13:30～16:30

会場 三番町共用会議所 大会議室
（Web会議「Webex」併用）

- 次第**
- (1) ガイドラインの適用範囲等
 - (2) 機械メーカーヒアリング
 - ① 伐倒作業車（松本システムエンジニアリング株式会社）
 - ② フォワーダ（株式会社諸岡）
 - ③ 集材機（イワフジ工業株式会社）



写真 第2回安全対策検討会 開催風景



写真 第2回安全対策検討会 開催風景
（機械メーカーヒアリング）

- 参加者**
- 【委員等】 陣川委員（座長）、中澤委員、岩岡委員（WEB）、齋藤委員、石井委員、天田委員
日高委員、淡田委員、舞草委員、伊藤委員、中島委員、飯澤委員、松本委員 堀江委員
- 【オブザーバ】 林業・木材製造業労働災害防止協会
- 【行政】 厚生労働省労働基準局
- 【事務局】 林野庁、日本森林技術協会